

授業 科目名	整形外科各論 (Orthopedics)	履修年次: 理2・作2	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 金子 徹 [リハビリテーション科医 師] (研究室: 仁戸名2)
			コード: RBB306, RBB221	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 整形外科の個々の外傷・疾患の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 運動器(骨・関節)の構造と機能を再確認しつつ、個々の運動器疾患の外傷・疾患の病態を理解する。整形外科的検査法、症候学、診断学(画像診断学を含む)、治療法(保存的治療・観血的治療)、合併症を理解することを目的とする。リハビリテーション科・整形外科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード: 運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	10/6	脊椎の外傷・疾患1	脊椎・脊髄の外傷(頸椎・胸椎・腰椎損傷, 脊髄損傷)	
第2回	10/20	脊椎の外傷・疾患2	頸椎疾患(頸椎捻挫, 頸椎症等)	
第3回	10/20	脊椎の外傷・疾患3	腰椎疾患(腰痛症, 腰部脊柱管狭窄症等)	
第4回	10/27	肩関節および上腕1	肩・上腕の外傷、肩関節不安定症	
第5回	11/10	肩関節および上腕2	肩関節の変性疾患、肩関節のスポーツ障害	
第6回	11/17	肘関節および前腕	肘・前腕の外傷、肘関節疾患	
第7回	12/1	手の疾患と外傷1	手関節と手指の外傷	
第8回	12/8	手の疾患と外傷2	手関節と手指の疾患	
第9回	12/15	股関節部および大腿1	骨盤外傷, 股関節および大腿の外傷	
第10回	12/22	股関節部および大腿2	股関節および大腿の疾患	
第11回	1/5	膝関節部および下腿1	膝関節および下腿の外傷	
第12回	1/19	膝関節部および下腿2	膝関節の疾患	
第13回	1/19	足の疾患と外傷	足関節と足部の外傷・疾患	
第14回	1/26	骨壊死症、切断	骨壊死性疾患・骨端症、四肢循環障害、四肢切断	
第15回	1/28	疼痛、スポーツ整形	慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科	
履修条件		人体の構造、人体の機能、病理学、運動学の復習を並行して行うこと。		
予習・復習		予習より復習を重視する。復習にはレジュメの見直しを推奨する。		
テキスト		「整形外科テキスト 改訂第5版」高橋 邦泰 他編 南江堂刊		
参考書・参考資料等		「標準整形外科学 第15版」井樋 栄二 他監 医学書院刊など		
学生に対する評価		定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。		

授業 科目名	精神神経科学総論 (Psychiatry: General remarks)	履修年次: 必修：理・作2年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 深見 (◆◆、●●、▲▲)
		実務経験のある教員による授業科目	コード: RBB213	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズムⅦ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、就職した場合に必要な知識を得ることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 1 日本の精神医療の歴史を学び、現在の日本が直面している様々なメンタルヘルスの問題について理解するようになる。 2 精神医学領域の基本的な症状、検査法、診断基準について学び、かつ基本的な治療法について理解し、説明できるようになる。 3 精神保健福祉法について、その概略を理解する。かつ法の精神に基づき、現代日本の精神医療、精神保健に関連する分野で各職種が果たしている役割を実感する。				
〔授業の概要〕 精神神経科学総論は以下の項目を系統的に講義する。現在先進国で主流となっている生物学的精神医学に立脚しつつ、精神現象を生物・心理・社会・倫理的な観点から複眼的に理解できるようにする。精神科医師実務経験により、精神神経科学の講義および精神医療に関する学習の支援を行う。				
キーワード:				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/11	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	深見
第2回	4/11	精神医療の必要性	精神医学・精神医療の基礎	深見
第3回	4/25	精神医学の歴史	日本あるいは世界における精神医学の歴史	深見
第4回	4/25	〃	〃	深見
第5回	5/9	精神医学の現状	精神科における診断基準について	深見
第6回	5/9	〃	〃	深見
第7回	5/23	精神疾患各論	精神疾患それぞれの特徴や問題	深見
第8回	5/23	〃	〃	深見
第9回	6/6	精神医療を取り巻く法律	精神保健福祉法とその関連法について	深見
第10回	6/6	〃	〃	深見
第11回	6/20	精神疾患の治療	精神疾患の治療法(薬物や精神療法など)の概要	深見
第12回	6/20	〃	〃	深見
第13回	7/4	精神医療と社会の関係	社会におけるメンタルヘルスの諸問題について	深見
第14回	7/4	〃	〃	深見
第15回	7/18	まとめ	授業全体を通じたまとめ	深見
履修条件		特になし		
予習・復習		指定しない。授業の中で、適宜指示する		
テキスト		指定しない、授業プリントを配布する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(50%)、課題(36%)、日ごろの学習態度(14%)により、総合的に評価する。		

授業 科目名	精神神経科学各論 (Clinical Psychiatry)	履修年次: 必修: 作2年 選択: 理2年 実務経験のある教員による授業科目	単位数: 1 単位 30 時間 コード: RBB223	担当教員名: 科目責任者 深見 (◆◆、●●、▲▲)
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力 Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法・理学療法の対象となる精神障害について、症状、疫学、原因と背景、診断、治療や支援の概要を理解し、実務上必要となる基礎知識を習得する。				
〔授業の概要〕 精神障害は、現代社会の臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患である。講義および演習形式により、理学療法、作業療法を行うにあたって、必要な、それぞれの精神障害についての疾患特異的な各論的知識を習得する。統合失調症、うつ病・双極性障害などの気分障害、不安障害、身体表現性障害、適応障害、摂食障害、認知症、物質依存、パーソナリティ障害などの代表的な精神疾患の診断、評価方法、治療（薬物療法、認知行動療法など）の概要について、理解することを目的とする。 キーワード: 精神、発達、心理、福祉、神経				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/1	精神医学総論 1	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第2回	10/8	精神医学総論 2	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第3回	10/15	精神医学総論 3	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第4回	10/22	特別講義(理学療法士)	理学療法士による現場の声	◆◆
第5回	10/29	特別講義(作業療法士)	作業療法士による現場の声	◆◆
第6回	11/5	器質性精神病 1	アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症	●●
第7回	11/12	器質性精神病 2	せん妄、身体疾患による精神症状	●●
第8回	11/19	気分障害	うつ病、躁うつ病	●●
第9回	11/26	統合失調症	統合失調症	●●
第10回	12/3	神経症 1	不安障害、パニック障害、強迫性障害	●●
第11回	12/10	神経症 2	急性ストレス障害、PTSD、適応障害、身体表現性障害、解離性障害	▲▲
第12回	12/17	人格・行動の異常 1	境界型人格障害、自己愛性人格障害など	▲▲
第13回	1/7	人格・行動の異常 2	摂食障害	▲▲
第14回	1/14	発達・知的障害 1	大人と子供の精神科的な違い	▲▲
第15回	1/21	発達・知的障害 2	精神遅滞、自閉症スペクトラム障害、ADHD等	▲▲
履修条件		特になし		
予習・復習		指定しない。授業の中で、適宜指示する		
テキスト		指定しない、授業プリントを配布する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 80%、学習態度 20%		

授業 科目名	臨床薬理学（Clinical Pharmacology）	履修年次:必修：	単位数:1 単位 15	担当教員名： 山本達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名 9)
		理・作 2 年次	時間	
			コード:	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法士・作業療法士を中心とした保健医療専門職が習得すべき薬理学の知識、日常臨床でよく使われる薬剤についての作用機序、対象疾患、副作用について習得することを目的とする。				
〔授業の概要〕 薬理学総論から始め、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、血液系、中枢神経系に作用する薬剤について、日常臨床で頻繁に用いられる薬剤と中心に作用機序、対象疾患、副作用を説明する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいた講義を行う。				
キーワード：循環器系薬剤、消化器系薬剤、腎・泌尿器系薬剤、血液系薬剤、中枢神経系薬剤				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	10/1	薬理学総論	薬力学、薬物動態学	
第 2 回	10/8	循環器系	降圧剤、抗不整脈薬	
第 3 回	10/15	消化器系、代謝・内分泌	消化性潰瘍治療薬、下剤、糖尿病治療薬	
第 4 回	10/22	腎・泌尿器系	利尿薬、過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬	
第 5 回	10/29	血液系	抗血小板薬、抗凝固薬、貧血治療薬	
第 6 回	11/5	中枢神経系	抗精神病薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬	
第 7 回	11/12	抗炎症薬	NSAID、ステロイド、抗アレルギー薬	
第 8 回 前半 45 分	11/19	まとめ	授業全体のまとめ	
履修条件		生化学総論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		授業プリント、教科書の予習・復習をすること。		
テキスト		休み時間の薬理学 第3版 丸山敬 著 講談社		
参考書・参考資料等		はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 著 羊土社		
学生に対する評価		定期試験 90%、学習態度 10%		

授業 科目名	老年科学 (Gerontology)	履修年次：必 修：理・作3年	単位数：1単位 30時間	担当教員名： 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名9)
		コード：RBB225		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 高齢者の身体機能と疾患について、専門学会等による老年病についての研究成果などを活用しながら、病態の特性をふまえた観点から教授する。授業では老化に伴った臓器や身体機能の変化とその失調について、さらに高齢者のリハビリテーション医療における問題点と対策を学修する。目標としては 1 高齢者に特有の生理的变化や頻度の高い疾患を挙げ、概要を説明できる 2 高齢者の理学・作業療法を計画し、それを遂行する課程でどのような事態が想定され、どのように問題を解決すべきかについて概要を説明できる。				
〔授業の概要〕 老化の意味、高齢者の生理、頻度の多い症候・病態の概要について講義を行う。具体的な症例を提示して教科書的な知識を臨床にどう活かすかについても学修させる。次回の授業時には小テストを行い、教科書の知識の確認・修正・定着を促し、文献からはば広く、深い知識を得る重要性についても自得させる。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。 キーワード：老化、加齢、老年病、サルコペニア、フレイル				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	老年病総論	高齢化社会の現状と今後の課題	
第2回	4/16	加齢とは	加齢による身体機能変化、フレイル、サルコペニア	
第3回	4/23	免疫系の老化と感染症	加齢による生体防御機構の変化と感染症 誤嚥性肺炎	
第4回	4/30	呼吸器系の老化と疾患	高齢者の非感染性呼吸器疾患	
第5回	5/7	循環器系の老化と疾患	高齢者の心・血管病変、動脈硬化	
第6回	5/14	代謝・内分泌系の老化と疾患	高齢者の糖尿病・脂質異常、内分泌異常	
第7回	5/21	消化器系の老化と疾患 1	高齢者の消化器疾患	
第8回	5/28	消化器系の老化と疾患 2	高齢者の便秘	
第9回	6/4	腎泌尿器系の老化と疾患 1	高齢者の腎泌尿器疾患	
第10回	6/11	腎泌尿器系の老化と疾患 2	高齢者の排泄障害	
第11回	6/18	神経・感覚器系の老化と疾患 1	パーキンソン病診療の最前線	
第12回	6/25	神経・感覚器系の老化と疾患 2	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症	
第13回	7/2	血液系の老化と疾患	高齢者の血液内科疾患	
第14回	7/9	自己免疫疾患	高齢者の自己免疫疾患	
第15回	7/16	まとめ	全体のまとめ	
履修条件		内科学総論・各論、脳神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習：教科書の該当部分を熟読 復習：配布プリントと教科書内容の対応確認		
テキスト		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験 90%, 学習態度 10%		

授業 科目名	小児科学 (Pediatrics)	履修年次 必修:作業療法学3年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: RBB226	担当教員名: 高柳 正樹[医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、療法士として健康と病気の小児を扱うのに必要な小児科学の知識を習得することを目指し、以下のテーマで講義を進めていく。 臓器別小児科学各論 ② 神経系の発達生物学と発達行動学 ③ 発達障害に関連する事項				
〔授業の概要〕 授業は講義形式でおこなわれる、小児科学概論には成長と発達の他の小児保健学が含まれる。小児科学各論には感染症が含まれる。神経系の授業には、脳性麻痺を含む行動発達障害が含まれる。小児科医師の実務経験により、小児科の講義に関する学習の支援をおこなう。				
キーワード: 成長と発達				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	4/10	新生児疾患	新生児疾患について解説	
第2回	4/17	遺伝、奇形、先天代謝異常症	遺伝、遺伝子に関する問題を中心に解説	
第3回	4/24	神経、筋、骨系統疾患 1	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第4回	5/1	神経、筋、骨系統疾患 2	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第5回	5/8	小児感染症	小児感染症について解説	
第6回	5/15	呼吸器、循環器疾患	小児呼吸器疾患、循環器疾患を中心に解説	
第7回	5/22	消化器、内分泌疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第8回	5/29	アレルギー、血液疾患、腫瘍性疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第9回	6/5	腎・泌尿器,眼科・耳鼻科疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第10回	6/12	正常発育・発達およびその評価	正常小児発達とその評価について解説	
第11回	6/19	ASD、ADHDなどの発達障害	発達障害の解説	
第12回	6/26	原始反射、低緊張の評価	原始反射、姿勢反射の説明	
第13回	7/3	事故、虐待、小児救急疾患	小児救急疾患の理解と対応	
第14回	7/10	心身症、重症心身障害児（者）	心身症および重症心身障害児の解説	
第15回	7/17	予防接種、育児相談など小児保健	小児保健に関する問題点	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：テキストにおける授業範囲を一回読む。授業当日配布された資料で復習		
テキスト		医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		定期試験（90%）、日ごろの学習態度（10%）により、総合的に評価する		

授業 科目名	授業科目名：	履修年次：必修：	単位数：1 単位 30	担当教員名：	
	臨床医学概論	理・作 3 年	時間		山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名 9)
	Outline of clinical medicine	実務経験のある教員による授業科目	コード：RBBB27		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム,Ⅱ コミュニケーション能力					
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
本授業では、リハビリテーションを実施する際に理解しておくべき症状や病態について、脳神経内科でよくみられる症候を題材として、診断から治療にいたるプロセスの習得を目標とする。					
以下のテーマで講義・グループ学習・発表を進めていく。					
①突然発症の片麻痺、②緩徐進行性の物忘れ、③手指振戦・動作緩慢、④意識障害、⑤急速進行性の四肢麻痺					
〔授業の概要〕					
理学療法、作業療法を行う際によく見聞きする症候を題材に、その症候から考えるべき病態、疾患、対処法について学習する。次に、グループ学習・発表を通じて、複数の症状を総合的にとらえる考え方を学ぶ。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義・演習を行う。					
キーワード：臨床医学、症候、病態、診断、治療					
〔授業計画〕					
回 数	日付	テ ェ マ	内 容		
第1回	4/9	突然発症の片麻痺(1)	講義（脳血管障害）		
第2回	4/16	突然発症の片麻痺(2)	グループ学習・発表		
第3回	4/23	突然発症の片麻痺(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第4回	4/30	緩徐進行性の物忘れ(1)	講義（認知症）		
第5回	5/7	緩徐進行性の物忘れ(2)	グループ学習・発表		
第6回	5/14	緩徐進行性の物忘れ(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第7回	5/21	手指振戦・動作緩慢(1)	講義（パーキンソン病、パーキンソン症候群）		
第8回	5/28	手指振戦・動作緩慢(2)	グループ学習・発表		
第9回	6/4	手指振戦・動作緩慢(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第10回	6/11	意識障害(1)	講義（脳炎、てんかん）		
第11回	6/18	意識障害(2)	グループ学習・発表		
第12回	6/25	意識障害(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第13回	7/2	急速進行性の四肢麻痺(1)	講義（脊髄炎、ギランバレー症候群）		
第14回	7/9	急速進行性の四肢麻痺(2)	グループ学習・発表		
第15回	7/16	急速進行性の四肢麻痺(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
履修条件		神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト		「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価		定期試験（50%）、課題レポート（50%）			

授業 科目名	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	履修年次: 理3・作3	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 金子 徹 [リハビリテーション科医 師] (研究室: 仁戸名2)
			コード: RBB308, RBB228	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III 実践に必要な知識, VI 多職種との協働				
[授業の到達目標及びテーマ]				
リハビリテーション医学は多職種チームの協働により、対象となる患者や障害者に社会参加を実現するプロセスである。医療の分野では医学的リハビリテーションに関して必要な知識・技術に基づいたチームアプローチが求められる。下記の授業概要に記載した内容を理解できるようにする。				
[授業の概要]				
理学療法・作業療法に関わる医学的リハビリテーションにおけるチーム医療のあり方、リハビリテーション医療の流れ、各障害の捉え方と評価、治療の流れを学習し、リハビリテーション医学に関する代表的な疾患について、その障害特性の把握に基づいたリハビリテーション医療の展開を理解する。リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード: 疾患の理解、障害評価、チームアプローチ				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/15	リハ医学総論	リハビリテーション医学概論、障害の理解	
第2回	4/22	運動器疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第3回	5/13	関節リウマチのリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第4回	5/20	脳卒中のリハ医学 (1)	脳卒中で生じる障害とその評価	
第5回	5/27	脳卒中のリハ医学 (2)	脳卒中に対する急性期リハビリテーション	
第6回	6/3	脳卒中のリハ医学 (3)	脳卒中に対する回復期・生活期リハビリテーション	
第7回	6/10	四肢切断後のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第8回	6/17	脊髄損傷のリハ医学 (1)	脊髄損傷で生じる障害とその評価	
第9回	6/24	脊髄損傷のリハ医学 (2)	脊髄損傷に対するリハビリテーション医療の展開	
第10回	7/1	末梢神経障害のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第11回	7/8	内部障害のリハ医学 (1)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第12回	7/15	高齢者、終末期のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第13回	7/22	小児疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第14回	7/24	神経難病のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第15回	7/29	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの展開	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習より復習を重視する。復習にはノート・レジュメの見直しを推奨する。		
テキスト		「リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版」医学書院刊		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験(80%)、日ごろの学習態度 (20%) により評価する。		

授業 科目名	作業療法概論	履修年次： 必	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤田 佳男 [作業療法士] (仁戸名研究室 5)
	Outline of Occupational Therapy	修：作1年	コード： ROB101	
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズムⅡ コミュニケーション能力Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 作業療法における作業の概念（歴史を含む）について説明できる。 2. 作業療法を構成する各領域の専門性を説明できる。 3. 作業療法士になるための心構えと職業的アイデンティティについて検討できる。				
〔授業の概要〕				
作業療法における作業の概念から始まり、作業療法の歴史、作業療法を構成する各専門領域の概観を理解し、その領域における作業療法士に必要な知識と技術を系統的に学習する。本科目の目的は各領域の概要を理解した上で、作業療法士になるための心構えと職業的アイデンティティについて理解し、作業療法を構成する各領域の専門性を説明できることとする。				
キーワード： 作業療法、歴史、ICF、養成校				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	4／16	作業療法の紹介	作業療法士の活動の場を学習する。	
第2回	(1, 2 限)	作業療法とは	作業療法とはどのような専門職か理解する。	
第3回	4／23	世界の作業療法	海外の協会等の動画から作業療法について紹介する。	
第4回	(1, 2 限)	作業療法の歴史	作業療法の歴史と作業療法の現状と課題について。 (学生 youtube 等から世界の作業療法の現状を紹介する。 WFOT 等各国の協会や大学の紹介動画を利用)	
第5回	4／30	作業療法の対象	作業療法の対象を障害の構造（ICF）を用いて理解する。	
第6回	(1, 2 限)			
第7回	5／7	作業療法の実際	作業療法の原理と理論、領域別作業療法、病期別作業療法、圏域別作業療法。	
第8回	(1, 2 限)			
第9回	5／14	作業療法の過程	作業療法の実際の流れを理解する。	
第10回	(1, 2 限)	作業療法部門の管理運営	職業人としての必要な倫理について理解する。	
第11回	5／21	作業療法士の養成	作業療法士の養成課程について学ぶ。	
第12回	(1, 2 限)	作業療法の研究		
第13回	5／28	身体障害分野・精神機能分野・	グループで各症例について ICF 等の専門用語を使用し、ま	
第14回	(1, 2 限)	発達過程分野・高齢期分野	とめを発表する。	
第15回	5／28 (3 限)	千葉県における高齢期分野作業療法の今後について	作業療法がなぜ必要になったのか？ 歴史から検討できる 各自、どのような作業療法士になりたいか具体的に説明できる。 (各分野のレポート提出) (試験)	
履修条件		特になし		
予習・復習		各自グループで発表準備（グループ学習と自ら学ぶ態度の育成）と提出、症例をまとめるレポートの提出、小テストの予習。		
テキスト		作業療法学概論テキスト 南江堂 ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版 中央法規出版		
参考書・参考資料等		配布資料を参考にすること		
学生に対する評価		課題レポート 10％，試験 80％（60 点以上必要条件），態度 10％により総合的に評価する。		

授業 科目名	授業科目名：	履修年次：	単位数：2単位	担当教員名：岡村 太郎 [作業療法士]（研究室： 仁戸名研究棟8
	作業療法管理学	必修：作3年	コード：ROB301	
	Occupational Therapy Administration	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力Ⅲ 実践に必要な知識Ⅵ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士の専門職種としてのあり方や職場での倫理・管理の重要性の知識を習得する				
〔授業の概要〕 作業療法士の勤務する職域や形態が多様になる中で、臨床実践での専門職種としてのあり方や職場での倫理の重要性を、実例を通じて知識を習得する。本科目は、一般的な個人・集団・地域の管理という狭義の職場管理に限らず、特に、専門職種としての生涯教育の重要性と職種の質の向上の理解を促し、自己啓発を継続する姿勢を身につけることを目的とする キーワード：管理、マネージメント、組織化、リーダーシップ				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1・2回	11/5	作業療法のマネジメント	マネジメントとマネジメントプロセス（PDCA サイクル）について	
第3・4回	11/12	組織の成り立ち・情報とマネジメント	組織について 組織の構成、部内の連携、職種間連携の在り方	
第5・6回	11/19	医療サービス・医療安全のマネジメント	医療サービスと医療におけるリスクマネジメントについて	
第7・8回	11/26	作業療法業務のマネジメント	人・もの・制度と時間・情報・ストレス等について	
第9・10回	12/3	職場管理の実際	作業療法部門の業務管理について	
第11・12回	12/10	作業療法の役割と職域と職業倫理	作業療法の法律と定義、作業療法士の職業倫理について	
第13・14回	12/17	作業療法士の取り巻く諸制度	医療保険制度、介護保険制度、障害者福祉制度、地域包括ケアシステムについて	
第15回	1/7	作業療法臨床実習の管理と作業療法士のキャリア開発	臨床実習のマネジメントと日本作業療法協会やその他の職能団体と生涯教育について レポート課題の提出と課題に対しての質疑応答	
履修条件		3年時に進級していること		
予習・復習		管理に関する入門書を一冊読むこと。		
テキスト		作業療法管理学入門3版（大庭潤平編，医歯薬出版株式会社）		
参考書・参考資料等		作業療法概論の教科書とプリント配布		
学生に対する評価		作業療法部門の管理に必要な書類等を資料としたレポート（80％）で評価を行う。出席など態度等（20％）を総合し評価をする。		